

平成 28 年度地域懇談会（北地域）

平成 28 年 1 月 26 日（土）

午前 10 時～午前 11 時 45 分

健康文化センター 多目的室

1 課題

「大口町消防団の現状と団員確保」について

2 対象地域

北小学校区（外坪、河北、上小口、中小口、下小口）

3 参加者

地域（51 名）

大口町

町長 鈴木雅博、副町長 大森滋、

地域協働部長兼町民安全課長 鶴飼嗣孝、岩崎課長補佐、兼松主査、

畑田主任、大胡田主事補

4 懇談会進行

総務部長兼秘書広報課長 社本寛

5 司会進行

秘書広報課 渡邊課長補佐

6 状況

町民安全課 兼松主査よりテーマについて説明を行い、その後懇談会を実施。

状況は以下のとおりです。

（町長 鈴木雅博 挨拶）

今回は、『大口町消防団の現状と団員確保』をテーマに開催させていただきました。

昨今、熊本地震や津波など災害が話題になっています。災害に関するテレビなどをご覧になると、必ず警察、消防士、自衛隊などが登場します。しかし、そういった災害時に本当に地域について考え、地域を良く知り、住民の生命と財産を守ってくれる一番頼りになる存在は消防団員だと思います。

50 年程続いている消防団について今後どうあるべきなのか考え、また、現在消防団が抱えている一番大きな問題は、人員確保でございます。我々が子どもころは、消防団と青年団と勤労奉仕くらいで、皆さん各地域でそれぞれ、地域を知るた

め、また地域のために働いていらっしやいました。今の大口町があるのも皆さんのお力だと感謝申し上げますが、ただ、今、存続している地域の団体で、火事の時などに活躍していただけるのが消防団だと思います。地域の皆さんもそういう意味で頼りになる存在だと思っていらっしやると思いますが、年々団員が減少しているのが現状であり、メンバーを集めてくる方も大変な状況です。その反面、個人的にお願いすると、「やっても良いが、現在、名古屋に勤めており、日中、消防団活動に参加できないかもしれない」とか、個人個人の諸事情があり、難しいこともあります。そして、昔のように地域の中で生活し、言い方は悪いですが、地域の中で一生を送るわけではなく、現在はお勤めなどで普段から多方面に出られています。例えば、昼間火事があったら、皆さんどうしますか？消防団の中には小牧や名古屋で働いていらっしやる方がたくさんいらっしやると思います。火事が起きても、昼間の活躍をご覧になることができない場面もありますし、逆に夜になれば、例えば企業で火事があると、従業員の方が帰られた後になりますと、消防団といえども、勝手に扉を開けて水をかけてはいけない状況が出てきます。

本当に今、世の中は多様化しております。もう一度皆さんと一緒に今後の消防団の活動について、お話をさせていただきたいと思い、地域懇談会の題材としました。今、皆さんが考えている色々な諸問題をこの場で発言させていただきたいと思います。また、最近の後期高齢の時代になってきています。消防団のOBの方、挙手をお願いします。（挙手が上がる）皆さん方、見ていただければわかりますが、会場の3分の1くらいの皆さん方が元消防団の団員であります。経験を多く積まれたこの方たちに何もしていただかないのも勿体ないと思いますので、ぜひこれからOBの皆さん方にも中に入れていけるようなシステムを考えればいいのではないかと思います。現状の消防団というより、我々の時代の消防団、今後の消防団のあり方、今の消防団、地域全体を見た場合の防災に対する考え方についてご意見を頂戴し、今後の町政の中で生かしてまいりたいと思い、簡単ではありますが、挨拶及びお礼に代えさせていただきます。

○「地域懇談会」の趣旨及びテーマについて説明（副町長 大森滋）

11月19日、北地域自治組織で防災訓練が行われました。北小学校で行われ、私も参加させていただきましたが、その中で、講師が「NPO 法人 神戸の絆2005」の専務理事 金芳外城雄（かねよし ときお）さんによる講演があり、災害時の自立共助が77%という話がありました。これは、地域住民の助け合いが命を救ったということです。

被災者164,000人中、自力で脱出できた人が129,000人、これは78%、救助を受けた方が35,000人おられましたが、警察・消防・自衛隊が救出した人

が7,900人で23%、救助を受けた中の残りの27,100人は家族や消防団、近隣の人が救出したということです。自立共助が77%というのは、自力脱出が78%、消防団を含めた地域の方が協力して助けた方が77%になるということで、警察や自衛隊が出動する前に地域の身近な方、或は消防団の救助活動によって多くの命を救っているということがいえるわけであります。

大口町の場合、将来、南海トラフ大地震が想定されておりますが、大口町の想定震度は6弱～5強が想定されています。

これはどのくらいかということ、10月21日、鳥取県中部で地震が起きました。その中で、倉吉市で被害者が2,000人、隣の北栄町では避難者が140人というような大きな地震でしたが、ここが震度6～5強と、まさに大口町の南海トラフでの想定震度と同様となっております。海溝型の地震は被害が広くなるといわれているので、被災地は孤立を深め、なかなか救助の手が差し伸べられないのではないかと想定されます。

そうした中で、消防団の団員確保がむづかしい状況となっております。昭和20年代、30年代は農業が中心だったため、生活パターンや働き方が皆、均一でありましたが、現在は勤め先も勤務時間もバラバラという中で、消防団の活動がやりにくくなっていると感じています。

皆様方からご意見をいただき、消防団団員の確保、或は消防団の活動のあり方について行政にご示唆をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

午前中の南小学校区では、女性消防団員から「私たちのミッションは何ですか。」という問いかけが初めてあり、改めてそういったことを確認することができる機会ともなりましたので、今回も有意義な意見交換を行っていきたいと思います。

○ テーマについて説明（町民安全課 兼松主査）

○ 意見交換

（座長：総務部長 社本寛）

今回は、テーマを「消防団員の確保」と設定させていただいておりますが、例えば、「こういう組織なら活動しやすいよね」とか「今の組織をこんな風にしたらどうだろう」と、多少「団員の確保」に直結しないご意見も出てくれれば良いかなと思います。

始めに、団員を預かっている消防団長の立場から、消防団活動についてお話しいただきたいと思います。それでは、酒井団長さん、お願いします。

(消防団長)

事務局から、消防団活動について説明がありましたが、大口町だけでなく全国的に団員の確保が難しく激減しており、どこの市町も抱える問題となっています。ぜひ皆さんの貴重な意見をいただき、消防団の今後の人員確保につながればと思いますので、よろしくお願いします。

(参加者 A)

過去に消防団員の経験があります。消防団と同じ活動は年を取っており難しいですが、OBの人で交通整理くらいならできるんじゃないかと思います。現役消防団員で会社に行ってしまうと活動が出来ないので、通常、家にいるような元気なOBやお年寄りに声をかけてもらえれば、万が一のときには地元のことであり、交通整理などもしやすいんじゃないかと思います。一人前の消防団というとな誰も手をあげませんが、「交通整理のようなことをしてもらえる人はいませんか？」という募集をしていただければ、そういう地元の意見もありますし、若干なりとも団員の数は増えると思います。

(座長：総務部長 社本寛)

働いている人は会社に行ってしまうと活動が出来ないので、昼間、家にいるOBの方に活動していただくのはどうかという意見でした。事務局どうでしょうか。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

午前中の南小学校校区でも、同じようなご意見をいただきました。通常の消防団員と同じような活動は難しいので、仕事を分けてくれればできるという話をいただいております。こちらとしても良いお話だと思いますので、やっていただく仕事、交通整理などをしていただき、火を消す時は従来の消防団員が行うなど、役割を分けながら、範囲を広げていく中で「消防団員」という名称になるかは分かりませんが、消防団活動に携わっていただける方が増えればなと考えております。

(座長：総務部長 社本寛)

先ほど、走ったり、訓練したりすることはとてもできないというような話もありましたが、その辺りはどうでしょうか。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

走るようなところは現役の若い方にやっていただき、OBの方には訓練とかで

はなく実際の火災の際の交通整理などをやっていただけるとありがたいと思います。午前中にも話をさせていただきましたが、火事の際に交通整理をしていますと、通っていく方は一言二言苦情を仰っていきます。そういった中で、人生経験豊富な皆さまに上手に収めていただけるとありがたいなと思います。

（座長：総務部長 社本寛）

まず積極的なご意見をいただき、事務局も考えていくという回答でした。このほかはどうでしょうか。

（参加者B）

資料を見て感じたことです。外坪は人数と出動回数を見ても、現状、今年度火災が3回あっても、出動回数は0回、人数をみると11名と一番多いのですが、こういった場合の報告や反省とかはあるのでしょうか。

（地域協働部長 鵜飼嗣孝）

昼間や午前7時ごろになってしまいますと、既に出勤しており不在だったということだと考えられます。

（座長：総務部長 社本寛）

この時の現場はこうだったということですので、数字だけをクローズアップするのはいかがかと思いますので、この他はどうでしょうか。

（参加者C）

先ほどの説明の中で、地域によって団員の人数ばらつきがあるとのことですが、少ない地区だと訓練をするにも他の地区の団員に協力してもらわないとできないということですが、訓練もままならないとなるといざ本番となったときに活動ができないと思います。各行政区で1分団ありますが、特にこだわらず2、3行政区で1分団とか、動きが取れるような形をとるといえる考えはいかがでしょうか。

（座長：総務部長 社本寛）

現在、昔の9行政区で9つの分団がありますが、2つで1つにしたり、午前中に出た意見では小学校区に1つの分団に再編したらどうかというご意見もありましたが、事務局その辺りはどうですか。

（地域協働部長 鵜飼嗣孝）

事務局としては、それも含めた中で、今日お話を聞く中で、色々な組織の内容変更を考えながら、消防や災害時に応援していただける方を増やしていきたいと考えておりますので、現在の9分団にこだわりはございません。

(参加者D)

関連して質問です。消防団というのは、法律に規定されているそうですが、報酬やイベントといったことが法に縛られているのでしょうか。大事なことは、地域や時代に適した柔軟な運営が一番望ましいと思いますが、そういうに法の縛りはありますか。大口町のこの地域にふさわしい、報酬を含めた消防団活動ができるのか、それをまず教えてください。

(座長：総務部長 社本寛)

活動に対する法の縛りというか定義や定めに関するご質問だと思います。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

担当から話がありましたように消防本部または消防署、消防団があれば法律上良いのですが、運用上、消防署が出来る範囲が限られておりますので、火災の後の延焼防止の作業は地域の消防団にお願いしている状況です。

全国の中で、消防団のない地域もあります。大阪です。愛知県でも少し前まで西尾市がそうでしたが、消防署員の人数が多くなり、そこに税金を投入しているようです。このように、町内には消防署がございますので、必ずしも消防団員を置かなくてはいけないということはありません。

また、報酬につきましては、金額の規定や支払い義務もないため、大口町で独自に考えて、年額報酬の金額や一回の出動に対する金額を定めています。こちらも含めて考えていかねばならないと思います。

(参加者D)

消防団の任務の中に、昼間は会社で勤務のためあるイベントだけ参加するといった機能別団員という制度があるらしいですが、それに近いものが女性消防団員だと思います。男性消防団員も含めて機能別団員は今、採用されていますか。これも有効だと思います。有効な手段は使わねばいけないと思います。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

今、大口町では、機能別団員は採用しておりません。消防団といえば、水を出して、走ってといった活動をしていただいています。プラス、10名の女性について

は、「予防団員」として、今のところ機能別という考えはなく、本部員という形で動いていただいています。見直しの中で、大勢の方にご参加いただくため機能別も含めて考えていきたいなと思っております。

（座長：総務部長 社本寛）

最初の意見にもありましたが、動ける余地が色々組み合わさって1つのことが出来ると良いねという、見直しをする時期の中で、2つのご意見は1つの視点なのかなと思いお聞きしました。他に、「私ならこんなことできるな」というご意見はありますか。

（参加者E）

先ほどの方と重複するかもしれませんが。小学校で勤めているときに、自動的に消防団に入るんだと、半強制的に入ることとなりましたが、満員のため順番待ちをして入ったという時代でした。訓練を行ってから随分時が経ち、今、第一線のことはできませんが、仮の名称ですが「シルバー消防団」として、火災が終わった後の、周りの警護や誘導はできるかと思っておりますので、年齢層や何ができるかといったことを真剣に考えていただければと思います。町としてのお考えはありますでしょうか。

（地域協働部長 鵜飼嗣孝）

そういう考えも含めて、考えるきっかけとして、今回の地域懇談会を開催させていただきました。

（座長：総務部長 社本寛）

自動的に入るといえるか、入らざるを得ないといえるか、私も役場の内定通知と共に親から消防団の内定通知ももらった経験があります。団員がなかなか集まらない理由としては、消防団活動と地域やご家族の考えも背景にはあるのかなと考えておきまして、今回、地域の皆さんと意見交換をして、「他にもこんなことならできるよ」というご意見を一つの案としていただきたいと思います。テーマが難しければその他の意見でもけっこうですので、ご意見をいただければなと思っております。

（参加者F）

私が、小学校高学年の時には、親と一緒に「マッチ一本、火事のもと」と夜回りをした世代でございます。青年団をやり、年がこれば消防団に入るといえるのが、なにも抵抗なく地元に住れば入らざるを得ないという中で、消防団に入り、現在は消

防団OBです。その立場で、ぜひ地元の高齢者で組織した別動隊という形で、火災時、消火栓にホースをつなぎ、消防車が来る前の数分～10分間、初期消火に当たる「シニア消防団」というのを検討していただきたいです。週に1回もしくは月に1回、側溝清掃の兼ねて、消火栓を使って放水訓練をすることで地元の高齢者をまとめていただきたいです。例えば外坪なら、郷、松山、巾それぞれ小さい部落で5～6人の人をまとめて維持してはどうでしょうか。時々、新聞では「シニア消防団」が紹介されていますので、先進地の紹介や研修を兼ねた見学といった取り組みをされてはどうでしょうか。

(座長：総務部長 社本寛)

先ほど、町長の最初の挨拶で手を挙げられた方も多かったですし、午前中の懇談会でもありましたが、昔は丹羽消防署が出来る前、役場で本部分団をやっていた時代、消防団員が300人程いらっしまったということで、町の中にOBの方がかなり多くいらっしやるなど実感したところです。今、こういったご意見をいただけるのかなり心強いなと思いましたが、事務局どうですか。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

ありがとうございます。今後色々考えながら、水出しまでできる方もできない方もいらっしやるかと思しますので、色々な機能別の種類を考えながら進めていきたいと思しますので、その際は、ぜひご協力をいただければと思います。

(参加者G)

資料に「消防団員数推移」とありますが、質問は2点です。1つ目の質問は、例えば下小口で火事が起きた時は、下小口9名の人しか活動しないのか、もしくは消防団員全員90名が活動するのですか？2つ目の質問としては、各地域には自主防災会を設けていますが、実際の消防団と自主防災会に期待するところあるいは、活用したいところなど役割分担について伺いたいです。

(町民安全課 兼松主査)

火災につきましては、大口町では、地元の分団については、残る時間が長いとかはありますが、基本的に全分団から行ける者が駆けつけ、活動しております。自主防災会や消防団員に期待することですが、どうしても災害や火災時、役場職員や消防署だけでは、とても対応できませんので、一人でも多く関わっていただき、地域で助け合っていただくのが一番かと思えます。

(座長：総務部長 社本寛)

火時の起きる時間帯にもよると思いますが、初期消火は丹羽消防署が行いますが、昼間、火災が発生した時に動ける可能性があるのは、大口町内でお勤めの方かつ、職場から離れられる方になってくるかと思います。そういったあたりでは、先ほどご意見が出ていた昼間家にいらっしゃる可能性のある方と、昼夜の役割を組み合わせると現場に駆けつけられる可能性が高くなるかと思います。例えば、JAですと昔は大口町の農協でしたが今は地域全体の農協ですので、昔は団員の方が沢山いらっしゃいましたが、今はほとんどいない状況です。そういった働き方の変化もあるのかなと思います。

(参加者G)

よくわからない部分が増えました。火事が起きた時に、何人必要か、ということではなく、火が発生したら90名全員集まれ、ということですね？

(町民安全課 兼松主査)

はい、そうです。

(参加者G)

自主防災会に関しては、自主防災会に、火災時におこなってほしいこととか、他地区の防災会に、自分のところの火災が起きた時に行ってほしいとか、こんな仕事をして欲しいとか、そういうマニュアルはまだ作成されていませんか。

(座長：総務部長 社本寛)

自主防災会の話とは少し異なりますね。説明をお願いします。

(町民安全課 兼松主査)

火災については、消防団員全分団で、メールを見たり、サイレンを聞いたもので行ける者が駆けつける形になります。

自主防災会は、そもそも各地域で立ち上げられた背景があり、各地区の消火栓もありますので、火災時にはそういったものを利用して消火活動をされている地域もあるかとは思いますが、しかし、自主防災会に役場の方から何か連絡をすることは行っておりませんので、各地区で判断して活動していただいている状況です。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

まず、自主防災会の目的は、災害時の仕事をお願いしたいというものが大本にあ

ります。その中で消防の活動もやっていただければと考えております。その中で、自主防災会についても、消防団と同様に昼間は仕事で出られない方が多くいらっしゃると思いますので、現実、昼間に火災が発生すると活動は難しいかなと考えております。

（参加者H）

2つ伺いたいです。1つ目は、表を見ると20代が少なく、新しく入られる方が少ないと見受けられます。団員の募集は努力されていると思いますが、例えば丹羽高校や精神高校などに行って入団の募集は行っているのか伺いたいです。

2つ目は、企業が沢山ある町ですからオークマさんにしろマザックさんにしろ東海理化さんなど大きな企業では、社内で消防団を持っているところがあると思います。そういった企業と連携や活用はこれまでどのようにおこなってきたか伺いたいです。

（座長：総務部長 社本寛）

団員の年齢と企業との連携というご質問でした。

（地域協働部長 鵜飼嗣孝）

まず、消防団の募集では、特に高校をまわっている状況ではございません。広報で募集をかけている状況です。基本、それぞれの地域で消防団員を勧誘してくださいということで、区長さんをお願いすることもありますし、消防団員がそれぞれ動いているところもあります。

企業については、午前中にも話をいただきましたが、これまで町の消防団担当と企業が接する機会がございませんでした。このため、なかなかそういった状況にはなりません。しかし、午前中の話の中で、消防署では点検や消防署員が各企業の消防訓練に指導に出向いたりしますので、そういった情報等をいただきながら一緒にお話させていただく機会を作りたいなと思います。

また、企業向けに戸別受信機を配布するのに企業をまわりますので、その際にぜひともというお話をしたいと考えております。

（座長：総務部長 社本寛）

年齢ということと企業との連携についてお話いただきました。午前中にも話ができましたが、企業の方は、消防署に訓練にされているということで、自社のことは割とやってみえるということですので、連携のためにまずは状況を把握するところから行っていきたいと思います。

(町長 鈴木雅博)

今、企業の話が出ましたので、ぜひお教えいただきたいと思います。Iさん、オークマの役員をやってみえたということで、オークマの中で今、消防に対してどういう考え方を持っているのか、組織を形成しているのか、いないのか、そういったことが全く分からない状況ですので、ぜひ企業としてどういう考え方を持っていらっしゃるのか、住民の皆さんにお教えいただきたいと思います。

(参加者I)

もう退社して随分経ちましたが、会社には、自主防災組織があり、社内にもそれなりの消防設備がございます。年に1度防災訓練を行っています。丹羽消防署のご指導を得ながら、会社として独自に行っております。大々的に半日程度使いまして行っております。目的は初期鎮火を第一に考えており、また電気設備にしても機械にもしても非常に危険なものもあり、水をかけて良いもの、悪いものがございますので、その場に慣れたものが第一にやることになっています。まず初期活動をやる、電機や、鉄を溶かすような危険個所については安全第一にやっております。丹羽消防署と緊密な連携をとり、講演をいただいたり、点検していただいております。

(座長：総務部長 社本寛)

先ほど、現役社員の方で手が挙がっておりましたので、補足説明等あればお願いします。

(参加者J)

現役社員で管理の部門におります。防災訓練は、少なくとも年1回部署によっては2回ほど初期消火に重点を置いて行っております。今、地域と企業のかかわりは今、全くない状態です。自主消防組織がありまして、災害の際は、社長を頂点にし、組織が動きます。もし、企業と行政が結びつくとき、どんなレベルで、どう結びついたらいいかということ、今後考えていけば、消防団の不足部分については企業で補えるかもしれません。ただし、人員的に、今の組織は、昼間働きに行き、五時には退社しますので、夜に火災が発生した時はどうかという問題はありますが、日中であればそういうことの対応は可能になるかと思えます。今までは企業と行政との接点は全くありません。先ほども話がありましたが、消防署については、年に何度も企業の設備がきちんとしているかという点検があります。それに加えて、消防訓練がありますので、自主消防団も簡易消防車ですが、ポンプ車がありますので、それを使って放水訓練しています。

(町長 鈴木雅博)

ありがとうございました。我々が今、お話を皆さんにお伺いして一番思うことは、昼間火事があったら、という話です。先ほどから何回か話が出ていますが、大口町の住民の中に消防団員が沢山おりますが、町外でお勤めの方が多くいる可能性があります。逆に近隣市町からオークマさんに来ている方も沢山もおります。昼間の消火作業がないとはいえませんので、そんな時に人員の確保などいろいろな面で消防団と同じような活動をしていただけないだろうかということを検討していきたいという話が午前中の南小学校区で出ておりました。たまたま議員の方で、東海理化の方もおりましたのでそういった話もできました。ただ、残念なことに資料にあります年間報酬が7万3,000円～5万7,000円くらい、出動の報酬が2,500円と書いてありますが、法令を直す必要があります。いわゆる大口町内にお住まいで消防団に入っていることが条件になっていますので、連携していこうとしますと、この部分を、議会で承認していただいて、大口町内で働いていらっしゃる方も入れなければなりません。極端なことをいいますと、町内から他市町に出ていっている方と入れ替わる形で活動をしていければありがたいと思いますので、今後地域協働部から声をかけ、詳しい話し合いをさせていただければありがたいと思っております。大口町はどちらにせよ企業ときちんと連携を結んでやってまいりたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

(座長：総務部長 社本寛)

恐らく、防災、災害に関しては企業さんと少し接点を持ちはじめているんですね。ただ火災というテーマでは、これまで双方でお話が無かったと思いますが、今後、今日のテーマは「団員の確保」といったことでしたが、丹羽消防署の常備消防を補完していく消防団、水防とか人探しといった活動を補完する消防団のあり方として、新しい課題が出てきたのかなと受け止めましたので、引き続き事務局の方で検討してもらえればなと思います。

(参加者K)

「団員の募集」について、もっと身近な団体があると思います。今年、地区の役員となり、盆踊りの企画をさせていただく中で色々な団体の協力の下、やらせていただきました。消防団員の募集は少しハードルが高いので、募集だけでなく、例えばソフトボール協会に事務局から働きをかけるのはどうでしょうか。阪神淡路大震災の時には3万人の方が近所の方や家族の方が救助をされたということは、我々自身が救助する立場になると考えられますので、スポーツ団体などにもっと働きかけをし、団員以外の人に緊急時に何をしたら、手伝いができるかというルールを説明すれば、例えば緊急時に周りの方、近所の方がルールを聞いたことのある団体の人であれば迅速に対応ができるんじゃないかと思います。団員に募集を全

て任しているというところを、行政が大きな団体と団体という部分を考え話をおろすのも方法ではないかと思います。

先日の町民体育祭でも非常に多くの方が参加されていまして。ということは、何かの団体のくくりもあるだろうし、団体と団体で重複している方もいらっしゃると思いますので、こういった働きかけで理解を深めてもらうことで、将来的な団員候補が生まれ立候補も出てくるのではないかと思います。

（地域協働部長 鵜飼嗣孝）

ありがとうございます。今ですと、消防で火を消して動ける人しか考えていませんが、先ほどからお話がありましたように、機能別で色々な種類を作る中で、今の消防団員とは質は変わるかもしれませんが、協力していただける人は増えるチャンスがあると思います。

先週、遠野市に災害協定の関係で町長と一緒に行かせていただきました。消防署に確認したところ、遠野市は人口が減っておりまして1万8千人程度です。消防団員は800人いらっしゃいまして、その内、ほとんどが機能別で、災害時には、機能別という形で、近所の人を助けようと手を挙げていただいているようです。こういう話もあり、一度機能別で考えていきたいと思います。

（参加者L）

上小口区は、最近、住宅ブームで非常に多くの方が分譲地を買われて入居の真っ最中でありまして。古い話になりますが、私たちが家を建てる時は、建築確認が終わりますと、役場の方に来ていただき、固定資産税のチェックをしていただくなど、完成すると沢山の方にチェックしていただいております。最近の建築確認の関係は分かりませんが、いずれにせよ危険予知ということではなく、消防団員を確保すれば、火災・災害対策は万全だということではなくて、火災・災害を未然に防ぐことも重要じゃないかと思います。最近の分譲を見てもみると、かなり隣近所の間が狭いんですね。火災が発生したら、類焼・延焼間違いないように眺めています。その辺の、大型の分譲地を造る過程において消防法できちんと定められているとは思いますが、我々からすると、「実際どこに消火栓があるのか」など把握できていないのが現状です。そういったことも情報提供していただきながら、また家を買われる方にも安心して住めますし、関心はかなりあるとは思いますが、大型分譲地の開発にあたっては、町としての行政指導も必要ではないかと思っておりますし、そうしたことで大きな社会問題を起こすような事件・事故が未然に防げ、安心安全にもつながると思います。少々消防団員の確保とは少し次元の違った話になりますがよろしく申し上げます。

(座長：総務部長 社本寛)

建築については、話がずれ過ぎるのでおいておき、建築確認の際の取組について説明していただきます。

(町民安全課 兼松主査)

上小口の沢山できた住宅については、大規模でもありますし、役場と色々協議をしてきました。その際、水道管も細かく引くために、ちょうど中央部分だと思いましたが、消火栓を設置していただきました。他にもいくつか消火栓や防火水槽の設置もお願いしておりますが、水道管の太さとか色々な問題ありますので、できるだけこちらから指導をさせていただいております。

(参加者L)

我々の家は古いので、昔の建築確認で建てられており、泥と木と紙でできた家です。阪神淡路大震災では火災が大変問題となり、建築法が変わり、新しい家は全部耐火・耐震工法で建てられているとは思いますが、実際性能は十分発揮されるのか、仮に火がついた場合、有害物質が発生するのかなど、その辺さえも微妙な部分があるんじゃないかと感じております。そういったことは建築確認の中で、問題ないことが把握できているかどうか気になりますのでよろしくお願いします。

(町民安全課 岩崎課長補佐)

建築確認の方は、今は行政や民間も入ってやっている状況です。新築の検査では、完成してから目視したり、消防に立ち会っていただく機会もありますので、両方の目から建築については確認しております。ただ、後からなにかやられた方は難しいですが、新築の確認検査は、全て行っております。

(町長 鈴木雅博)

昨日、テレビを観ておりましたら、今までの建築確認や基準は大きな災害に伴って2回変更になっています。今ある建物が絶対的に安全かということは一概にいえません。1階はつぶれる可能性があるので2階にいたほうが安全だという話もあり、「直下率」という基準の話もあり、これからまた建築基準はだいぶ変わっていくと思います。そういう意味では、どこが安心で安全かということは、ここでは言えなくなってきています。しかし、そこで災害が起きた時にどうするかというのが今、出てきている話題になります。やはり、隣に住んでいる人たちが助ける、色々な団体の人たちに助けていただかなければならない、たまたまケガをされず、健康

でいらっしゃる方をお願いをしなければなりません。今後、役所もそうですが、縦割り行政の中でこうしていけばいいだろうという考え方や尺度が変わってきているということも目立ってきており、今日、消防という切り札でお話させていただきました。

先ほど話にもありましたように、地域に根差した、地域を良く知っている方に、活躍していただける団体をいくつか作っていきたいと思っています。ぜひ、一部の建物とかの部分でなく、人と人とのつながりの中で、どういう形で組織を作っていくのか、ということの一つのポイントとして考えていただければありがたいですし、その核として消防団を考えていただき、また消防団に入っただき、その中で色々、消防活動や、南小学校区の女性消防団の啓発活動ですとか様々な活動をやっていただきたいと思います。午前中、女性消防団の皆さんからは、お願いしている啓発活動以外にも、自分たちがもっと色々なことをやりたいという話がありました。我々からお願いしたことが段々と大きくなってきており、この大きくなっていくことが地域に根差していくことだと思っています。消防団も少し形を変えられるよう、皆さんにつつながない意見をいただきまして、変えるチャンスをいただけるとありがたいと思います。

(座長：総務部長 社本寛)

団員の確保ということで、区としての取組ですとか、心配している事とかあれば出していただければと思います。午前中には、ある区では今年、団員が少ないことについて、区会の中で話し合ったという話もありましたが、皆様方はどうでしょうか。

団員数の推移を見て頂きますと、必ずしも人口が多い地区が団員を確保できているかというところではなくて、先ほど OB の方の話にもありましたが、人と人とのつながりの中で、団活動をもう少し続けようとか、入ろうか、ということが見て取れますが、どうでしょうか。

(参加者M)

大口町消防団では大きな災害が起きた場合、大口町の消防団の指揮系統は大口町ということですよ。河北で堤防が切れたら、トヨタの人も指揮系統の下、動くということで、豊田の人がその地域のみ予防対策をするわけではないですよ。丹羽消防署が常設であり、大口町の消防団は大口町の指揮系統の下動くということですよ。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

災害対策本部が設置されますと、町長が先頭となりまして、その一部門として消防団が含まれますので、大口町からの指示で動いていただきます。

(参加者M)

地域の消防団の方が地域に密着するということではなくなりますね。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

その時の状況によりますが、必ず地域にいるということではなく、外坪の団員さんが河北に行く、ということもあると思います。

(参加者M)

実は私は外坪です。外坪は200戸そこそこの小さな地域です。冒頭に話がありましたが、ご無理を言って10人の方に消防団員をやっていただいております。盆踊りの交通整理や、この前のボヤ騒ぎの後始末も、少ない戸数で地域の消防団の方に骨折ってやっていただいております。出動時に、どうしても人数が少ないことがあります。町の指揮系統のもと出動する消防団ですから、何のために地域別の人数が必要なのでしょうか。消防団として必要なのですか。内部資料じゃないんですか。消防団の方に沢山入ってくださいと言っても、出動時の人数が少ないという数字が出たために、「もう消防団やりたくない」「行きたくない」という人が出たらどうでしょうか。自分の勝手な思いを言っただけですが、心と今思いました。この中に外坪の方も沢山みえますが、いつも消防団の方にご無理を言って、ご迷惑をおかけして、僅かばかりの協力金を出して、お願いしていますので、一つには温かい目で守ってあげることと援助したいという思いでいます。

昔と違って今思うことは、車にサイレンがついていますが、訓練するときサイレンを鳴らすのは違法ですか。訓練に行くときに、サイレン一つ鳴らすことで、消防団の方にお世話になっているという住民感情が高まるような気がしますが、そういうことはしていけないでしょうか。「私は知らないわ」という消防団を無視した人のご意見ばかりが優先されて、サイレンを自粛するようなことでいいのかという疑問を持ちます。

(座長：総務部長 社本寛)

出動に関しては、時間帯や団員の勤務地にもよりますので、必ずしも出動できるものではないと思います。先ほども申し上げたかと思いますが、その数字だけ取り上げるのはちょっと困りますので、温かい目というよりは、当たり前の話なので、まず参加していただけるということを皆で評価して、守っていくことだと思いま

す。そういう面で、横のつながりが強いので、なかなか行くことはできないがやろう、ということだと思うので、数字だけみるのはやめていただきたいと思います。

サイレンの件はどうでしょうか。

(町民安全課 兼松主査)

サイレンに関しては、ご存じのとおりほとんど鳴らないと思います。火災予防週間には鳴らしていますが、過去には参集時に鳴らしていたという風には聞いていますが、今は鳴らしていないと思います。鳴らさなくなった経過は分かりませんが、法的に鳴らすのがいけないというのではないと思います。

(座長：総務部長 社本寛)

お昼の 12 時に役場のサイレンを、起動するかどうかの点検を兼ねて鳴らしていますが、夜勤明けの睡眠の妨げになる騒音だからやめてくれという話もあります。ご近所の人からすればそうかもしれませんが、今の意見も一つの意見として、皆で温かく見守っていくことが大事なことだと思います。

(参加者N)

消防団を卒業して 40 年になります。中小口の区会で、昨年の区長が元消防長だったため、区会議員の皆さんに色々話があり、消防団員を紹介してほしいという話がありました。そういう話はあっても、消防団員の報酬などの待遇は良く分かりません。私が消防団員のころは、支給されたのは制服と直足袋と脚絆だったかと思います。今は、観閲式とか、出初式で着るきちんとした制服と出勤時の制服もありますし、退職金もあるかと思います。待遇面のことも一度きちんと出していただいた方が良いと思いますし、報酬についても見直しをいつされたかも分かりませんが、その辺りも出した方が良いかと思いますが、どうでしょうか。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

まず、一つ目に募集の段階で色々な情報提供をするというご提案、ありがとうございます。参考とさせていただきます。

報酬については、年間報酬は役職により 73,000 円～57,000 円、一回出勤や訓練に出っていくと 2,500 円とさせていただいておりますが、今後、機能別で仕事をお願いするということになりますと報酬の見直しも必要になってくるかと思えます。

(座長：総務部長 社本寛)

先ほどのご意見の中に分団ごとの定数は必要かというご質問をいただいたかと思しますので、事務局考えておいてください。

では、次の方どうぞ。

(参加者〇)

現役団員から一つ。ここに年齢別の資料がありますが、私は 13 年目の団員になりますが、現場ですとか訓練で見る顔はこの 10 年ずっと一緒です。自分が入団したころは、「20 代、30 代がメインだよ」と言われていたのが、そのまま 10 年経って 40 代に広がってきているだけです。20 代の子も入ってくれ、人数の推計には加わりませんが、他に来なくなった人の入れ替わりになるような形で、主に活動する人はこの 10 年全く変わらず来ています。機能別団員の話もありますが、まずは私達が 10 年やってきた経験を次に引き継ぐ人達が欲しいです。でないと、また 10 年、20 年経って私たちが動けなくなった時に、次に入った子たちが何もわからないという状態になってしまいます。多分、入ってすぐに、消防署の人や分団の人とは顔見知りになることはできないです。5 年、10 年かかって他の分団と顔見知りになり、誰とでも現場で活動できるようになるのです。ということで、すぐに勧誘したいのですが、今、どこに勧誘に行けばいいかわかりません。昔は、団員の同級生や後輩、友だちのところに行っていましたが、今は、空きすぎて後輩がどこにいるのかわからない状況で、また、若い人がどこにいるのか聞いても個人情報関係で教えてもらえません。実際どこに話に行ったらいいかわからないのです。ここに若い人がいる、元気な人がいる、という情報をいただければ、団員が自分たちで行って、報酬・活動内容等を説明し、直接勧誘をしますので、できれば、どこに誰がいるのかという情報だけでも現役団員に教えていただけると、直接そこで人間関係を作っていきますので、もう少しやらせていただければありがたいと思います。

(座長：総務部長 社本寛)

後輩を作りたいので、その行先を教えてもらえるとありがたい、という話ですね。先ほどの分団の定数の話と、今のご意見について事務局お願いします。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

一つ目の分団の定数ですが、資料にもありますが、総トータルで 100 名です。この基本になっているのは、9 分団各 10 名で考えておりました。この定数は、9 分団ありきのもので、また 9 分団には 1 台ずつ消防車両がございます。消防車両を運転し、ポンプを出し、水を出すには 10 人くらいいるのではないかという考え

で定数を出しております。色々な見直しをする中で、この定数の変更も考えながらやらねばならないと思います。

それから次の後輩を探すということですが、今話にあったとおり個人情報の関係で役所から情報を出すことはできません。多分、発言したものは近所の皆様に、知っている人がいましたら、自分に教えてほしいということだと思しますので、よろしくをお願いします。

（座長：総務部長 社本寛）

予定した時間になりましたので、最後、これを言っておきたいという方、どうでしょうか。

（参加者P）

消防団員のご苦勞が良く分かりました。そこで、専従職員を確保したり、役場職員を割くというお考えはありませんか。

（地域協働部長 鵜飼嗣孝）

専従職員という意味が分かりませんが、消防署がありますので、基本的に火を消すのは消防職員がやってくれます。その中で、残りの火の始末や応援に消防団が参加するわけですが、消防団員を常勤で、という意味合いでしょうか。

（参加者P）

そうです。人が足りない、足りないというので、その方を採用するのは難しいですか。

（副町長 大森滋）

消防団員を町の職員として採用してはどうか、ということでしょう。

（地域協働部長 鵜飼嗣孝）

町の職員としてですね。現在、消防団員の内、12名が役場職員となっています。下小口でいいますと5人中5人が役場職員となっています。

（参加者P）

でも、それでは、足りないということですよ。なので、新たに採用してはどうかということですよ。

(地域協働部長 鵜飼嗣孝)

新規で役場職員が入りますと、勧誘していますが、消防団をやるために採用することはできません。

(参加者P)

消防団員が足りないということなので、募集して専従職員とすれば、足りないことにはならないでしょう。

(副町長 大森滋)

消防団員を職員として採用するということですが、人数をそろえてそれでいいかというとそういうことではないと思います。役場職員が消防団を占めるということになると、いざという時、役場職員は非常配備で役場に集まり、災害対策本部の業務をおこなうこととなるため、消防団活動はできなくなります。非常勤特別職の消防団員として幅広く皆さんに担っていただくことが本来の消防団員の目的を達成するための姿ではないかと考えています。

(座長：総務部長 社本寛)

それでは時間になりました。色々なご意見をいただきました。OBの方のチカラを借りながら、従来の団員の役割を機能別にし、力を組み合わせながら検討してはどうかという話。またその中で定数の見直しで、9分団にこだわらず、午前中の話にもあったような小学校区くらいで編成するのはどうだろうという検討を根本的にしていってどうかという話がありました。募集をする場所や、働きかけをする場所の話ですね。町内の団体に団員の勧誘や活動の紹介をすとか、現役団員自らが勧誘に動くが、どこにいって分らないといった話がありました。町民安全課の方でお受けしながら考えていければと思います。

座長として進めさせていただきましたが、いずれにせよ、皆でやらなければならないと分かってはいるもののいざやろうとすると、「いや自分は…」となりがちですので、こういった場で話をしながら、テーマを絞って、本当に自分たちにとって消防団は必要なのか、必要だけど自分たちは手を出さないよ、となると成り立ちませんので、見直す節目にあるということは今日のこの懇談会で出てきた大きなテーマでありますので、区長さんですとか、地区の皆さんとお話する機会をもらって検討を進めさせていただきたいと思います。

これで、地域懇談会を終了させていただきます。ありがとうございました。

(副町長 大森滋)

今日は、長時間にわたり、ありがとうございました。

午前中の議論の中では、消防団の組織改編をし、小学校区ごとにするという話や、OBの活用をという話もありました。組織の再編をしても、消防団の活動状況が変わるわけではありません。消防団員がなかなか活動しにくいという中で、組織を再編したとしても団員が十分集まるかどうか分からない状況があるだと思いました。

昼からは、組織の再編については話題にあまり上がりませんでした。主にOBの活躍やシニア対象の消防団から、色々な団体に災害対策の研修を受けていただき、いざという時に近所で活躍してもらったらどうかという話もあり、私としては話が少し発展したかなと思いました。しかし、そうはいつでも、現役消防団員から消防団本体の任務を引き継ぐ後輩がなかなかできてこないという話がありました。消防団を再編したり、OBを活用しても、また、色々な団体に防災の取組を知ってもらっても、消防団としての任務を引き継ぐ後輩がいなくなると、消防団にとって将来的に持続可能な組織ではないということで、私自身は重く受け止めています。そういう中で、団員候補の高校生のリストは消防団としてはつかみきれない情報ですし、町としても個人情報の問題で出し切れないということがあり、ここにいる沢山みえる地元の役員の皆さんが地元の状況を把握する中で、ここにこういう子がいるという情報を出していただければ、現役団員が動きますよという話でしたので、これからはこういうことも必要なのかなと思います。

明日も、西小学校区の懇談会がありますが、議論を深めながら、懇談会を終了した後に、町の中で議論しながら、これからの消防団のあり方、組織の強化の仕方を検討して、結果を皆さんにお話できる機会があるかと思います。

今日は、色々なご意見をいただき本当に参考になりました。ありがとうございました。